

体系的・組織的に取組む情報モラル教育

静岡大学教育学部
准教授 塩田真吾

ワーク① 【アイスブレイク】 どんなどころが問題？問題になりそうなところに、○をつけてみよう



■ SNS をめぐるトラブル

① 悪口・いじり



グループトークでのいじりや無視、短文の意味の取り違いによるケンカ

② 不適切情報の発信



悪ふざけの写真やデマの書き込みなどの SNS での発信による炎上

③ 不適切サイトの閲覧



性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを見て、過度な影響を受ける

④ 著作権の侵害



無許可の映像や音楽のアップロードや、違法と知りながらの音楽や映像のダウンロード

⑤ 知らない人との出会い



SNS で知らない人から会うことを求められたり（誘い出し）、自分の画像を送ることを求められる

⑥ 高額課金



たくさんのお金を使って、ゲームのアイテムなどを購入してしまう

⑦ 長時間利用



ゲームや動画、SNS の使い過ぎで体をこわす

⑧ 不正なアプリのインストール



不正なアプリのインストールによる個人情報の流出や遠隔操作による被害

特に、小・中学生に多いトラブルは・・・

① 主に、「コミュニケーション」に関するトラブル

→ LINE（グループ）で悪口、Twitter で悪口など

② 主に、「個人情報」に関するトラブル

→ YouTuber として自宅を公開、勝手に写真を公開など

③ 主に、「使いすぎ」に関するトラブル

→ 長時間や高額のお金などを使いすぎてしまう。ゲームの内容的な影響も

■情報モラル教育の課題

- ①毎年、外部講師に講演してもらうけど…… **トラブル事例の紹介だけでいいの？**
- ②家庭との連携が重要だって言われるけど…… **家庭でのルールをつくれればいいの？**
- ③トラブルは多いし、重要なのはわかるけど…… **何を、いつ、やればいいのか？**

子どもに何を身につけさせるか

- 情報モラルとは、**情報社会で適正に活動するための基となる考え方と態度**
- 新学習指導要領の総則において、児童生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、**情報活用能力（情報モラルを含む。）等の学習の基盤となる資質・能力を育成**するため、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとすることを明記。
- 基本となるのは、**日常のモラル、ネットの特性、リスクの想像や上手な活用の力**

トラブルを考慮しながら指導内容・方法を検討する必要性

- 「育てたい子ども像」と「現場のトラブル」
- 喫緊の課題に対応しながらも、体系的な情報モラルの指導が求められる

① 毎年、外部講師に講演してもらうけど… **トラブル事例の紹介だけでいいの？**

ありがちな指導方法（トラブル事例の紹介）

- ・（極端な）トラブル事例をたくさん見せて、怖がらせる
- ・ 映像教材を見せて、トラブル回避方法について考えさせる
 - ⇒ （子ども）自分は「悪口」なんて言ってないし。
 - 自分は「不適切な写真」なんてアップしないし。
 - 自分はネットを「使いすぎ」てないし。

※ 子どもたちは、問題を「自分のこと」として自覚できているのでしょうか？

指導のポイント

情報モラル教育として大切なのは、トラブル事例の提示だけではなく、
**問題を「自分のこと」として自覚させ、安易な結論を与えず、どのように
対応すればよいかを様々な状況で考え続けさせる（トレーニングさせる）こと**

ワーク②

【実践事例】LINE×静岡大学「楽しいコミュニケーションを考えよう」（基本編）



() → () → () → () → ()

イヤだ

イヤじゃない

カード分類比較法で「自覚」を促す

本教材では、何が「悪口」なのか、何が「不適切な写真」なのか、何が「使いすぎ」なのか、をカード分類比較法を用いて議論します。こうした議論を行うことで、「もしかしたら自分もやっちゃってるかも…」という**自覚を促す**ことが期待できます。

カード分類比較法のよさ

- ・ 手元にカードがあると、話をはじめやすい。
- ・ 「選ぶ」という行為は、根拠があるので、「理由」を述べやすい。

→ 誰もが「意見」と「理由」を述べることができる。

リスクの見積もり力（危機予測）を高める

「このくらいは、大丈夫だろう」

⇒ 「何が危険か」はわかっているが、「どのくらい危険か」がズレやすい。

ネット版のKYT（危険予知／危機予測トレーニング）

「リスクのグラデーション発想」

⇒ 「会わない」「公開しない」の1か0かの発想ではなく、**リスクのグラデーション発想**

「どのような特徴があったら、怪しいと判断すればよいか」という**危険を予測する力**を育む

※ 文部科学省「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」

- ⑮ **SNSを通じた出会いの危険性**（対象：小学5年生～中学1年生）
- ⑯ **スマートフォンやタブレットなどの使いすぎ**（対象：小学1年生～小学4年生）
- ⑰ **スマートフォンやタブレットなどの利用マナー**（対象：小学1年生～小学4年生）
- ⑱ **著作物を公開するためには**（対象：小学5年生～中学1年生）

ワーク③

【実践事例】⑮ SNS を通じた出会いの危険性

「連絡先を教える」場合のリスクは？

1 友達登録する



たいち

情報大学情報学部2年 / 今年ハタチです / 車持ち
 / 遠くにドライブいきたい / マヤちゃん大好き

フォロワー数：250

2 友達登録する



みさき

情報高校1C→2A / 吹奏楽部 / ホルン吹いています
 / 17才♀ / アニメ大好き / マヤちゃん大好き

フォロワー数：58

3 友達登録する



みっち

東京 / 2児のママ / カフェ店員やってます！
 / 土曜の夜はホームパーティー / マヤちゃん大好き

フォロワー数：540

4 友達登録する



ブラウン

IT系 / 27歳 / ゲーム実況の動画配信してます
 / イベント好きの人フォローしてね / マヤちゃん大好き

フォロワー数：2,210

5 友達登録する



ルンたん

情報大卒 / アメリカ留学 / 洋楽 / 英語教えます
 / 勉強教えてほしい人メッセして / マヤちゃん大好き

フォロワー数：32

 リスク小 / 問題ない	 リスク中 / ちょっと危険	 リスク大 / かなり危険

ワーク④

内容や場所、相手、関係性などをふまえて、表現する場所を考える

	①家族に LINE で話す	②親友に LINE で話す	③友達の グループ LINEで 話す	④鍵つき Twitter で話す	⑤鍵なし Twitter で話す
A：新発売のジュースを飲んで 「このジュース、おいしい！」 と思った					
B：カフェのランチを食べて 「このお店、マズすぎる…」 と思った					
C：「ブサイク芸人大集合」という テレビの番組を見て 「あの人、学校の先生に似てるな」 と思った					
D：たくさん食べる女子を見て、 「女性なのにすごいな」と思った					
E：物腰が柔らかい男子を見て、 「少しオネエっぽいな」と思った					

○ … 大丈夫 △ … 悩む × … 不適切

クライシス・マネジメントの発想

トラブルが起こってしまった時に、どう対応するか

リスク・マネジメントだけでなく、クライシス・マネジメントの発想も

※ 特別支援教育での情報モラル教育をどう進めるか

ネット版の SST (ソーシャル・スキル・トレーニング)

例) 相手を傷つけないスキル

(SNS で上手に断る, 上手にお願いする, 上手に謝るスキルなど)

自分を守るスキル

(個人情報を守る, 知らない人に出会わない, あやしさを見抜くスキルなど)

※ (例) リアルでのコミュニケーション指導

- ・ 相手に伝わる話し方のポイントは?
- ・ 相手の話を聴くときのポイントは?



【参考】特別支援向け情報モラル教材 「SNSでの写真の公開」, 「SNSでのコミュニケーション」

特別支援教育向け情報モラル教材

SNSの「上手なつかいかた」を考えよう

SNSでのソーシャル・スキルのトレーニング

「SNSでの写真の公開」を考えてみよう

ワークシートに書きましょう

5枚の写真を、3つのグループにわけてみよう!

YouTube (ユーチューブ) やTwitter (ツイッター) は、**たくさんの人**が見られるSNSです。

世界中の人が、公開した写真や動画を**見**ることができます。

「SNSでのコミュニケーション」を考えてみよう

スタンプの使い方を知ろう

スタンプの使い方を知ろう

友だちからのお願いを「ことわる」ときは、どのスタンプを伝えようかな?

会社を休むときに、上司にLINEで連絡してもよいのかな?

②家庭との連携が重要だって言われるけど… 家庭でのルールをつくればいいの？

ありがちな指導方法（家庭でのルールづくり）

- ・ スマホ、ゲームの使い方や視聴時間について家庭でルールをつくらせる。

※でも、ルールをつくれば、それでよいのでしょうか？（このルール、何が問題？）

- ・ 夜遅くには連絡をしない。
- ・ ネットで友達の悪口を書かない。
- ・ ネットで相手の嫌なことをしない。
- ・ 不適切な写真をアップしない。
- ・ スマホを使いすぎない。

なぜ、ルールづくりが必要か

⇒ルールの3つの機能

- ①「やってはいけないこと」の共有、
- ②**正当ないいわけ**、
- ③**罰則を与える際の根拠**

指導のポイント

スローガンのようなルールづくりを推奨する前に、

- ・ ルールの中の「**曖昧さ**」を考えさせる。
- ・ つくって終わりではなく、その**ルールを守るための工夫**を考えさせる。
- ・ **タイムマネジメントの力**を身につけさせる。

ルールの「曖昧さ」こそが、議論のチャンス

→こうした議論を踏まえているかどうか、ルールづくりの最大のポイント。

※「他律」と「自律」

他律……自分の意志ではなく、**他人の命令**などによって行動する

自律……常に、**自分の意思で判断**しながら、行動する

⇒ いつまでも「他律」（ルールを守らせる）だけでよいのか？

自律を促すためには、子どもに「工夫を考えさせる」こと

そのルールは、「どうすれば守ることができるのか」という発想

→ ルールを破ったことを怒るか、ルールを守る工夫（システム）を考えさせるか

→ そのルールを「破ってしまう時（守れないシチュエーション）」を考えてみよう

ワーク⑤

※「ゲームは1日1時間」このルールは、どうしたら守られるのでしょうか。

【1日1時間】をやぶってしまう時は？

どう工夫すれば守りやすくなるかな？

自律を促す「タイムマネジメント」の力

- 1) やることを書き出す
- 2) 「時間」を予想する
- 3) やる順番を考える

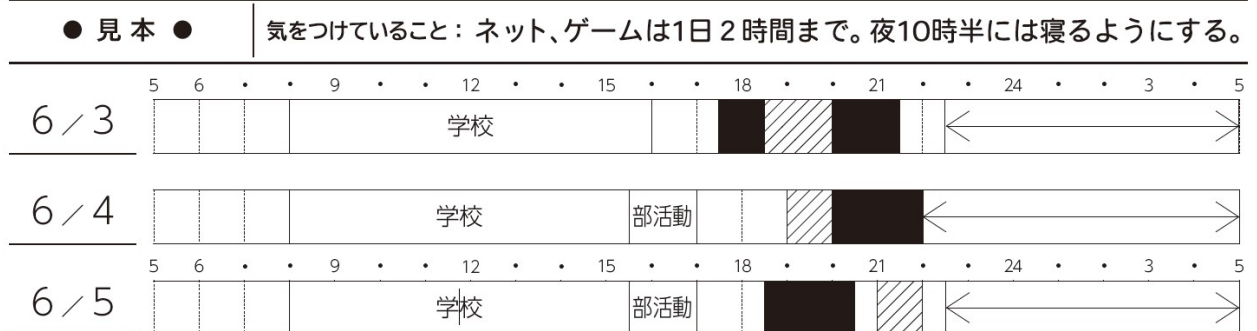
※ 時間の予想をやってみよう

予想 () 分 () 秒 実際 () 分 () 秒

使いすぎの「見える化」

24 時間の時間の使い方を記録させ、友達と比較させる。

◎やったことに応じて塗ろう ■ ネット・ゲームの時間 ▨ (授業を除く)学習時間 ⇄ 睡眠時間



- ・自分より、上手に24時間を過ごしている人を参考にしてみよう。
- ・起きる時間、寝る時間、勉強時間の「開始時間」を決めて、毎日一定にしてみよう。
- ・改善する目標を「行動目標」にしよう。（「頑張る」をやめて、数字を入れてみよう）
- ・友達から夜遅くにメッセージが来ちゃう場合は、「スマホは夜〇時まで」という

ルールがあると、断りやすいよ。

③ トラブルは多いし重要なのはわかるけど… 何を、いつ、やればいいのか？

指導のポイント

各学校の実態と発達段階を踏まえて、①日常モラルを醸成し、②ネットの特性を理解させ、③リスクの想像や上手な活用の力を身につけさせる。そのために、**どのような力が身につけているかを把握し、どのような力をどの時間で身につけさせるかを計画する。**(カリキュラム・マネジメントの視点)

【参考】 情報モラル診断サービス (静岡大学 × カスペルスキー) ※ 利用無料

診断画面と集計結果

子どもたちがパソコンやタブレットで問題 (25 問) に答えることで、教師は、子どもたちのスマホ所持率、ネットの使用状況、フィルタリングやルールの有無、モラル・セキュリティ・法律の知識を把握することができます。

ここで得られたデータは、クラス別、学年別の比較や全国平均との比較により、情報モラルの指導に役立てることが可能です。

【参考】 「SNS ノート」の取り組み ※WEB で公開中

ワーク⑥

情報モラル教育を実践するためのカリキュラムマネジメント検討シート

トラブル 分類	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学校	高校
<p>長時間利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強への影響 ・健康への影響 					
<p>コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの悪口 ・SNSでのいじり ・グループはずし ・誘い出し 					
<p>不適切情報の 発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪ふざけの写真 や書き込み ・デマの拡散 ・詐欺 					
<p>著作権の侵害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違法と知りなが らの音楽や映像 のダウンロード 					
<p>セキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス感染 ・遠隔操作 ・個人情報の流出 					